

次期横浜市福祉のまちづくり推進指針の原案について

1 趣旨

横浜市福祉のまちづくり推進指針（以下「推進指針」といいます。）は、横浜市福祉のまちづくり条例（平成 24 年条例第 90 号。以下「条例」といいます。）第 12 条に基づき、策定しています。現行推進指針の期間が令和 2 年度までとなっているため、横浜市福祉のまちづくり推進会議（以下「推進会議」といいます。）の下部組織である小委員会（別紙参照）を設置し、次期推進指針策定に向けた検討を行ってきました。

このたび、次期推進指針の原案がまとまりましたのでご説明します。

条例（指針の策定）

第 12 条 市長は、福祉のまちづくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる指針（以下「推進指針」という。）を策定するものとする。

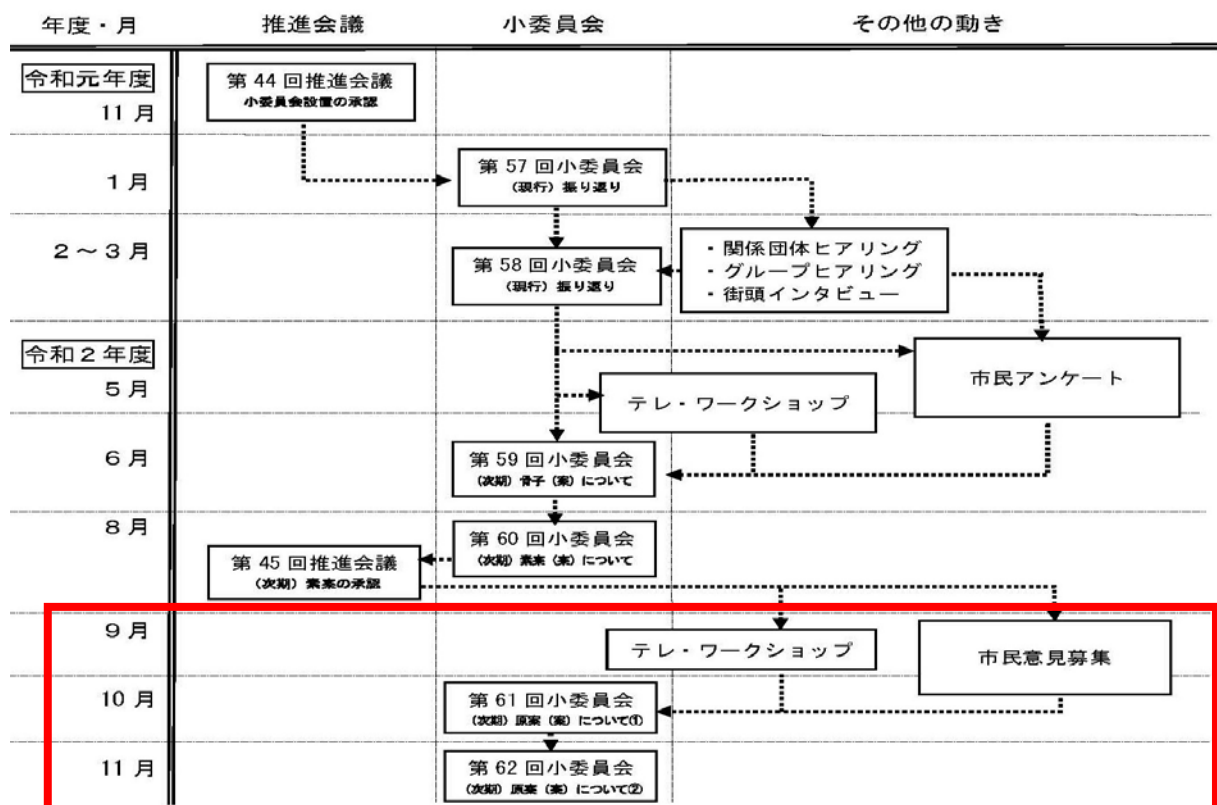
2 推進指針に定める事項は、次のとおりとする。

- (1) 福祉のまちづくりに関する目標
- (2) 福祉のまちづくりに関する施策の方向
- (3) 市、事業者及び市民が一体となって福祉のまちづくりを推進するための具体的方針
- (4) 前 3 号に掲げるもののほか、福祉のまちづくりに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要事項

3 市長は、推進指針を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、推進会議に諮るものとする。

2 第 45 回推進会議以降の検討内容及び経緯

第 45 回推進会議でご承認いただいた素案をもとに市民意見募集を行ったほか、「次期推進指針の広報、活用方法」をテーマにテレ・ワークショップを行いました。その後、小委員会での検討を経て、案をまとめました（赤枠内が、第 45 回推進会議以降に実施した取組です）。



(1) 関係団体ヒアリング

推進会議委員の所属団体に対してヒアリングを行いました。

(2) グループヒアリング

推進会議委員の所属団体以外の当事者・支援団体にグループヒアリングを行いました。

(3) 街頭インタビュー

市内の駅前の歩行者に対して街頭インタビューを行いました。

(4) 市民アンケート

小委員会で出たご意見や上記(1)～(3)の内容を基にアンケート項目を作成し、3,500名の市民を対象にアンケートを実施しました（住民基本台帳から無作為抽出、郵送方式）。

(5) テレ・ワークショップ

障害当事者が所属する団体や福祉・バリアフリーに関連する活動を行っている個人・団体、地域やまちづくり関係の活動をする人などに参加を募り、Web会議ツールを通じて、意見交換をしていただきました。

開催日時 ・ テーマ	第1回 令和2年5月13日 18時から19時30分まで テーマ「身近な福祉のまちづくりに関する意見交換」
	第2回 令和2年6月5日 18時から20時まで テーマ「次期福祉のまちづくり推進指針の骨子について①」
	第3回 令和2年6月12日 18時から20時まで テーマ「次期福祉のまちづくり推進指針の骨子について②」
	第4回 令和2年9月28日 15時から16時30分まで テーマ「次期推進指針の広報、活用方法について」

(6) 市民意見募集

第45回推進会議でご承認いただいた素案について、広く市民の皆様からご意見をいただくため、市民意見募集を実施しました（「資料1-2」参照）。

- ・実施期間：令和2年9月14日から令和2年10月13日まで
- ・個人として31名、団体として7団体よりご意見をお寄せいただきました。
- ・ご意見の総数は132件です（素案に関する意見：58件、参考意見：74件）。
- ・いただいたご意見のうち、26件について原案に反映しています。

3 次期推進指針の内容

(1) 全体に関する考え方

- 策定期間は、社会情勢の変化に対応するため、現行推進指針と同様の**5年間**とします。
- 福祉や福祉のまちづくりに関わっている方以外にも関心をもってもらえるよう、主に**福祉のまちづくりに関心が低い層**や**無意識な層**をターゲットとし、構成や文言・説明をわかりやすくします。
- 標題には「**ふくまちガイド**」といった通称を使用し、市民や事業者の皆様が親しみやすい名称とします。
- 困っている人からの一方的な要望ではなく、**誰もが福祉のまちづくり推進の担い手となることの重要性**を伝えます。
- 福祉のまちづくりを推進し、横浜が目指す姿として「**ビジョン (未来像)**」を示します。また、市民・事業者・市（行政）に共通する大切な考え方である4つの「**ポリシー (理念)**」や、「**アクション (行動)**」する上で参考となる基礎知識や事例を紹介します。
- 次期推進指針の内容が、**実際に具体的な行動につながるようにします**。
- 社会モデル**や**SDGs**といった新たな理念について記述します。

(2) 主な改定概要

次期推進指針は主に「ビジョン (未来像)」、「ポリシー (理念)」、「アクション (行動)」の3つで構成されています。

ビジョン (未来像)【6ページ】

「ソフトとハードが一体となった取組をみんなで進め、
多様性を尊重する横浜のよさを育み、
安心して自由に生活できるインクルーシブなまち」

- ・基本的には、現行推進指針の「基本となる方向性」を継承しています。
- ・「横浜のよさ」として、横浜が培ってきた多様な文化を受け入れ、大切にしている風土があることを明記しました。
- ・「インクルーシブ」という言葉を用い、「全ての人が受け入れられ、参加できる」という考え方を反映します。
- ・5年後も含め、将来的に目指す理想的な状態像として位置づけます。

ポリシー（理念）【7ページ～9ページ】

ポリシー1 みんな違ってあたりまえ

高齢者、障害者、子育て中の人、外国人、性的少数者など、社会には多様な人がいることを認識した上で、相手を知ろうとする、考える姿勢を持ち続けることの大切さを説明します。

ポリシー2 一緒に活動する

直接福祉に関係のないことでも、趣味や地域活動を通じ、様々な人と一緒に活動することで、それぞれの価値観を尊重する社会の実現につながることを説明します。

ポリシー3 まずはやってみる

身近なところから何ができるかを考え、できることからでもまず始めてみることの重要性を説明します。

ポリシー4 もっともっとバリアフリー

着実にバリアフリー整備を進めていくことや、バリアフリーに関する適切な情報提供、利用者の声を反映した施設整備の重要性を説明します。

アクション（行動）【10ページ～25ページ】

基礎知識

- ・ 高齢者、障害者、子育て中の人、外国人、性的少数者などに関する基本的な情報を紹介します。
- ・ 読者が一歩踏み出すきっかけとなるよう「アクション（行動）の具体例」を掲載します。
- ・ ヘルプマークなど、様々なマークを紹介します。

事例紹介

読者が福祉のまちづくりへ参加するヒントとなるような、市民・事業者・市（行政）の取組事例を紹介します。

(3) 第45回推進会議以降に追加・変更した主な項目

（【 】内は「資料1-1ふくまちガイド原稿案」での掲載箇所をお示ししています）

ア UD（ユニバーサルデザイン）フォント【全体】

市民意見募集でいただいたご意見を踏まえ、多くの人を読みやすい文字として、UD（ユニバーサルデザイン）フォントに変更しました。

イ 副題【表紙】

福祉のまちづくりに関わる当事者として読者が意識する導入となるよう、副題を追記しました。

副題「^{インクルーシブな}みんなのまちは、あなたのアクションから」

ウ 推進会議コメント【表紙の裏】

読者に向けたメッセージとして、推進会議コメントの案を作成しました。

エ 子どもの視点【1、8 ページ】

前回の推進会議及び事前の意見照会でいただいた「子どもの存在が見えづらい」というご意見を踏まえ、大人から子どもまで福祉のまちづくりを推進する人として含んでいることや、子どもの頃から様々な人とつながりを持つことの大切さについて説明を追加しました。

オ 障害の「社会モデル」【10 ページ】

社会モデルに関する記述をより充実させるため、説明を追加しました。

カ 様々なマーク【19、20 ページ】

内閣府ホームページや横浜市が発行している「障害福祉のあんない」等を参考に、子育て中の人、障害者等に関連する代表的なマークを掲載しました。

キ 事例紹介【21 ページ～26 ページ】

市民・事業者・行政が身近なところから「アクション（行動）」を起こす上で参考となる事例を掲載しました。

No.	タイトル	掲載箇所
1	減災活動をきっかけに「だれもが住みやすい緩やかな関係づくり」 「ピンチをチャンスに！減災共助の会」	21 ページ
2	子育てを「ちょこっと」体験し、仕事との両立のヒントを見つける 「家族シミュレーション」	
3	同じ地図を使って、みんなで情報を共有する 「触る地図」	22 ページ
4	+αのバリアフリー化 「ユニバーサルな利用に配慮したホテル」	23 ページ
5	インターンシップ生のアイデアが出発点 「多言語版おくすり手帳」	
6	設備を工夫して誰もが楽しめるアクティビティに 「ユニバーサルパス」、「水陸両用車いす」	24 ページ
7	より多くの方へ能・狂言を届けたい 「バリアフリー能」	
8	施設の利用マナーについて発信する 「エスカレーター安全利用」	25 ページ
9	横浜市で初めての住民提案による作成 「羽沢横浜国大駅周辺地区バリアフリー基本構想」	26 ページ

ク コラム【表中の「掲載箇所」参照】

福祉のまちづくりに関する話題や取組について、コラムを掲載しました。

No.	タイトル	掲載箇所
1	コロナ禍における様々な問題	5 ページ
2	やさしい日本語	13 ページ
3	バリアフリー施設の利用マナー	14 ページ
4	多目的トイレの機能分散	16 ページ
5	読書バリアフリー法	
6	音声読み上げソフトによる情報提供	17 ページ
7	Web 会議ツールを活用したテレ・ワークショップの開催	22 ページ
8	心のバリアフリーノート	25 ページ

ケ 国際的な動向【27 ページ】

福祉のまちづくりのあゆみの中で、社会モデルの重要性を強調するために、「国際的な動向」を追加しました。

4 概要版（仮）に関する検討の進め方

原案の作成と並行して、概要版（仮）の内容を検討しています。令和3年1月に「概要版に関するミーティング（仮）」を予定しています。

5 今後のスケジュール（予定）

